

文学概論		通年 4 単位	
物語構造の討究		井上 明芳 (いのうえ あきよし)	
ねらい	どのような文学研究でも、〈読む〉という行為を欠かすことはできない。そのためには〈読み〉の可能性を引き出す方法論を習得する必要がある。〈読む〉とは何を読むことなのか。その目的と方法を習得する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 物語(テキスト)の構造分析について 1 第3回 物語(テキスト)の構造分析について 2 第4回 芥川龍之介「羅生門」の構造分析 1 第5回 芥川龍之介「羅生門」の構造分析 2 第6回 太宰治「走れメロス」の構造分析 1 第7回 太宰治「走れメロス」の構造分析 2 第8回 太宰治「桜桃」の構造分析 1 第9回 太宰治「桜桃」の構造分析 2 第10回 志賀直哉「小僧の神様」の構造分析 第11回 国木田独歩「牛肉と馬鈴薯」の構造分析 第12回 芥川龍之介「歯車」の構造分析 1 第13回 芥川龍之介「歯車」の構造分析 2 第14回 横光利一「機械」の構造分析 1 第15回 横光利一「機械」の構造分析 2	【後期】 第1回 演習 1 第2回 演習 2 第3回 演習 3 第4回 演習 4 第5回 演習 5 第6回 演習 6 第7回 演習 7 第8回 演習 8 第9回 演習 9 第10回 演習 10 第11回 演習 11 第12回 演習 12 第13回 演習 13 第14回 演習 14 第15回 構造分析の意義について(まとめ)	
進め方	前期は基本的に講義形式で進めます。多くの論理に触れてもらいます。上記予定に掲げた作品を事前に読んで講義に臨んで下さい。後期は、演習形式で進めます。発言したり質問したりといった社会的な力を養います。取り上げる作品は、前期中にみなさんと相談の上決定します。取り上げる作品は日本文学ですが、構造分析の理論は英文科でも応用可		
テキスト	講義中に取り上げる小説。ガイダンスで詳しく説明します。	参考文献	「〈読む〉ための理論」世織書房 ロラン・バルト 「物語の構造分析」
評価方法	出席状況:20% 発表内容:30% レポート:50%		

英文学演習 I		通年 4 単位	
ヴァージニア・ウルフ The London Scene 精読		丹羽 隆子 (にわ たかこ)	
ねらい	20世紀英文学を代表する作家の一人 Virginia Woolf のエッセイ集を読みます。溢れる詩的想像力と鋭い人生批評、社会批評が魅力的なエッセイ5編を読みながら、現代文学の手法といわれた「意識の流れ」について語る“Mr Bennet and Mrs Brown”も併読、さらにモダニスト、フェミニストとしての一面も考えます。		
授業計画	【前期】 第1回 授業についてオリエンテーション、作家についてイントロダクション 第2回 ビデオ映画 Virginia Woolf 鑑賞、講義 第3回 “Abbeys and Cathedrals” 精読、講義 第4回 “Abbeys and Cathedrals” 精読、講義 第5回 “Abbeys and Cathedrals” 精読、講義 第6回 “Mr Bennet and Mrs Brown” 講義 第7回 “Mr Bennet and Mrs Brown” について学生による発表 第8回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第9回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第10回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第11回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第12回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第13回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第14回 “The Docks of London” 学生による発表、講義 第15回 前期末試験	【後期】 第1回 映画 Mrs Dalloway 鑑賞、ヴァーチャル・ロンドン観光 第2回 モダニスト、フェミニスト・ウルフについて講義 第3回 “Oxford Street Tide” 学生による発表、講義 第4回 “Oxford Street Tide” 学生による発表、講義 第5回 “Oxford Street Tide” 学生による発表、講義 第6回 “Oxford Street Tide” 学生による発表、講義 第7回 “Great Men’s Houses” 学生による発表、講義 第8回 “Great Men’s Houses” 学生による発表、講義 第9回 “Great Men’s Houses” 学生による発表、講義 第10回 “Great Men’s Houses” 学生による発表、講義 第11回 “This is the House of Commons” 学生による発表、講義 第12回 “This is the House of Commons” 学生による発表、講義 第13回 “This is the House of Commons” 学生による発表、講義 第14回 “This is the House of Commons” 学生による発表、講義 第15回 後期末試験	
進め方	あらかじめ学生による発表箇所を割り当てます。担当箇所は教師になったつもりで訳読中心に発表。その後、質疑応答、補助的講義。学生全員が参加する授業を目指します。		
テキスト	Virginia Woolf, The London Scene (北星堂) ならびにその他エッセイなどコピーして配布	参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	出席数:20% 授業発表(参加度):20% 期末試験:60%		

英文学演習Ⅱ		通年 4 単位
The Nation's Favorite Poemsを読む		松村 伸一 (まつむら しんいち)
ねらい	イギリス人の愛唱詩を通して、詩の読み方について考えるとともに、背景となるイギリスの歴史と文化について学ぶ。イギリス人の心情や考え方を理解するのに役立つ一方、日本人の心にも何かしら訴えるところはあるだろう。多くの作品を読み進めていく中で、一行一句でも良い、自分のお気に入りの「ことば」を見つけてほしい。	
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 イギリス詩の歴史と技法 第3回 If: Not Waving But Drowning 第4回 The Listeners: The Lake Isle of Innisfree 第5回 The Lady of Shalott 第6回 The Daffodils: To Autumn 第7回 Ode to a Nightingale 第8回 The Cloths of Heaven: Remember: Leisure 第9回 Dulce Et Decorum Est: Dover Beach 第10回 To His Coy Mistress: The Tiger 第11回 Stop All the Clocks: Adlestrop: The Soldier 第12回 Warning: Sea-fever: Cargoes 第13回 Westminster Bridge: How Do I Love Thee? 第14回 Fern Hill: The Windhover 第15回 Review Session	【後期】 第1回 The Highwayman 第2回 Elegy Written in a Country Churchyard 第3回 Ozymandias: Stopping by Woods: Everyone Sang 第4回 Do Not Go Gentle Into That Good Night: Sonnet XVIII 第5回 The Rime of the Ancient Mariner 第6回 Naming of Parts: The Darkling Thrush 第7回 Kubla Khan: Home-Thoughts, From Abroad 第8回 Jabberwocky: The Owl and the Pussy-Cat 第9回 High Flight: The Road Not Taken: When You Are Old 第10回 I Remember, I Remember: Prayer Before Birth 第11回 Bloody Men: This be the Verse: The Flea: Toilet 第12回 Abou Ben Adhem: Journey of Magi: Christmas 第13回 She Walks in Beauty: Warming Her Pearls 第14回 Please Mrs Butler: Anthem for Doomed Youth 第15回 Review Session
進め方	毎回1～3編の作品をひたすら読み進めつつ、詩の技法や約束事、背景となるイギリスの歴史・文化などについて、コメントを添えていく。主体的に詩のテキストの読解に取り組んでもらわないと「読み」の楽しみは伝わらないので、何らかの形で授業に「参加」してもらおう。毎回、予習を踏まえて、何らかのコメントを提出してもらおう予定。	
テキスト	The Nation's Favorite Poems. Foreword by Griff Rhys Jones. London: BBC Worldwide Ltd., 1996.	参考文献
評価方法	出席とコメント提出:30% レポート(2回):70%	

米文学演習Ⅰ		通年 4 単位
「失われた世代」とアーネスト・ヘミングウェイ		宮内 華代子 (みやうち かよこ)
ねらい	ヘミングウェイの作品と研究書・書簡を取り上げ、彼の文学的特質を知り、それを生み出した時代との関連を学ぶ。それにより、ヘミングウェイの「人」と「作品」を多角的に捉え、波瀾に富み、数々のエピソードを生み出した彼の生涯についても学びます。	
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第3回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第4回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第5回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第6回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第7回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第8回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第9回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第10回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第11回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第12回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第13回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第14回 筆記小テスト 第15回 『誰がために鐘は鳴る』DVD鑑賞、感想文提出	【後期】 第1回 グループ研究、資料検索方法図書館ガイダンス 第2回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第3回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第4回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第5回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第6回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第7回 グループ研究、資料解読・解説、添削指導 第8回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第9回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第10回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第11回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第12回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第13回 学生の発表・討論、資料解読・解説、添削指導 第14回 筆記小テスト 第15回 後期期末試験レポート
進め方	毎回研究書からの抜粋を取り上げ、解読・解説、添削指導を行う。作品・書簡は学生の担当者が作成したレポートの口頭発表と質疑応答により読み進める。後期の授業ではテーマ別のグループ研究を取り入れる。随時、課題について、記述式解答を提出する。	
テキスト	Indian Camp & Other Stories of E.H.(成美堂)、フィッツジェラルド/ヘミングウェイ往復書簡集(ダイナミックセララズ出版)	参考文献 Carlos Baker:Hemingway(Princeton Univ.Press)
評価方法	後期試験レポート:30% グループ研究レポート:20% 出席:20% レポート発表:20% 前後期末小テスト:10%	

米文学演習Ⅱ		通年 4 単位	
チカーノ（メキシコ系アメリカ人）が語るアメリカ南西部/サウスウェストの物語		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
ねらい	米国のラテン化を推し進めるヒスパニック系、その中核をなすチカーノについて文学・映画・音楽・美術等を通じて学ぶ。褐色の二級市民として歴史の間に埋もれてきた人々の、豊かな北と貧しい南、英語とスペイン語、同化主義と多文化主義、男と女、支配と被支配の双方がせめぎ合う「混血の声」は、ボーダーレス化する日本に何を問いかけるのだから		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로 第2回 絵本に見るチカーノたち 第3回 絵本に見るチカーノたち～歴史 第4回 歴史 第5回 歴史 第6回 歴史～映画『ミ・ファミリア』 第7回 大人になること（男の子の場合）～中間レポート要項説明 第8回 大人になること（男の子の場合）～中間レポート締め切り 第9回 チカーノ公民権運動 第10回 同化主義 v s 多文化主義 第11回 同化主義 v s 多文化主義 第12回 言語論争～スパングリッシュ 第13回 言語論争～スパングリッシュ～期末レポート要項説明 第14回 言語論争～スパングリッシュ 第15回 前期まとめ～期末レポート締め切り	<p>【後期】</p> 第1回 風土・自然 第2回 風土・自然 第3回 チカーノ・アート 第4回 チカーノ・アート 第5回 チカーノ音楽 第6回 チカーノ音楽 第7回 中間レポート要項説明～映画『ガール・ファイト』 第8回 中間レポート締め切り～映画『ガール・ファイト』 第9回 大人になること（女の子の場合） 第10回 チカーノ・フェミニズム 第11回 チカーノ・フェミニズム 第12回 チカーノ・アクティヴィズム 第13回 チカーノ・アート・アクティヴィズム 第14回 まとめ～期末レポート要項説明 第15回 まとめ～期末レポート締め切り	
進め方	上記のテーマごとに英文と日本語の資料や作品・AV資料を鑑賞する。講義の他に演習形式でリポーターを中心にディスカッションを行う。		
テキスト	大泉・牛島共編『アメリカのヒスパニック＝ラティーノを知るための55章』明石書店、他プリントを準備する。	参考文献	随時紹介
評価方法	レポート4本:60% 平常点（出席他）:40%		

英語学演習Ⅰ		通年 4 単位	
生成統語論入門		仁科 弘之（にしな ひろゆき）	
ねらい	言語能力の解明を目指す文法である「生成文法」の基本的発想を理解するクラスです。目標は、（１）英語の基本的構文をこの枠組みで理解することができ、さらに（２）この枠組みで自らその構文の導出ができるようになる、ことです。（以下が扱う範囲ですが、進度は皆さんの理解度によって大きくかわる可能性があります。）		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 第2回 文法と母語習得 第3回 構造と樹形表示 第4回 範疇と句構造規則 第5回 構成素構造 第6回 代名詞の種類 第7回 束縛理論（１） 第8回 束縛理論（２） 第9回 Xバー理論：階層と投射 第10回 Xバー理論：動詞句構造、形容詞句構造 第11回 Xバー理論：補部対付加部 第12回 Xバー理論：主部、補部、指定部 第13回 拡張Xバー理論：名詞、冠詞、決定詞句 第14回 拡張Xバー理論：時制句と補文標識句 第15回 復習とまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 Xバー理論の復習 第2回 意味役割（１） 第3回 意味役割（２） 第4回 主要部移動：V移動（１） 第5回 主要部移動：V移動（２） 第6回 主要部移動：T移動とD Oの支え（１） 第7回 主要部移動：T移動とD Oの支え（２） 第8回 名詞句移動と受動文 第9回 格と受動文（１） 第10回 格と受動文（２） 第11回 動詞句内主語仮説（１） 第12回 動詞句内主語仮説（２） 第13回 繰り上げ文と制御（１） 第14回 繰り上げ文と制御（２） 第15回 まとめ	
進め方	英文テキストのトピックを詳しく解説します。予め読んで理解に努めてきて下さい。講義をよく聞いてノートをしっかりとってください。そうすれば必ず理解できます。辞書は語法の詳しいものを必携。板書をノートに写すことで確認や演習も行いますので、多色ボールペンを持参すると便利。何でも質問して下さい、説明します。出席重視、私語は厳		
テキスト	授業初回にプリント（主に英文）を配布。必ず出席のこと。解説プリント（日本語）も適宜配布。授業中に板書のノートをこまめにとるのが良い成績をえるための最良の	参考文献	文献解題を配布し、クラスで随時紹介する。
評価方法	出席度:30% 講義の理解度:30% レポート（問題演習）:40%		

英語学演習Ⅱ		通年	4 単位
社会言語学		江田 優子 (こうだ ゆうこ)	
ねらい	本講では社会言語学の基礎を学び、言語と文化、アイデンティティの問題を考えていきます。前期はシンガポールの英語変種を事例とし、言語と民族の関係に焦点をあてて学んでいきます。後期は異文化コミュニケーションの基礎を学び、具体例として国際結婚を調査し、異文化への関心を高め、理解を深めていきます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨン 第2回 言語、方言、変種 第3回 二言語使用 第4回 言語と文化 (サビア・ウォーフの仮説) 第5回 言語変種 第6回 シンガポールの英語史Ⅰ 第7回 シンガポールの英語史Ⅱ 第8回 シンガポール英語の特徴 第9回 まとめテスト・DVD鑑賞 第10回 発表1 第11回 発表2 第12回 発表3 第13回 発表4 第14回 Review 第15回 予備日	【後期】 第1回 国家・人種・文化の定義 第2回 世界地図のイメージ 第3回 マスコミュニケーションとステレオタイプ 第4回 異文化コミュニケーションの基本となる考え方 第5回 アイデンティティ 第6回 言語コミュニケーション 第7回 非言語コミュニケーションⅠ 第8回 非言語コミュニケーションⅡ 第9回 まとめテスト 第10回 国際結婚と英語 第11回 インタビュー 第12回 資料の検討・まとめ 第13回 発表 第14回 テスト講評・国際結婚について感想文作成 第15回 予備日	
進め方	原則的には教師の講義と学生の発表を交互に行っていきます。発表は、教師の提示した文献の調査とまとめを行ってもらいます。文献に関してはその都度指示します。		
テキスト	多民族社会の言語政治学 (ひつじ書房)	参考文献	社会言語学入門 (上・下) (リーベル出版)
評価方法	出席:20% 授業参加度:40% テスト・発表:40%		

英国文化演習		通年	4 単位
イギリス近現代女性史を学ぶ		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
ねらい	18世紀から20世紀にかけてイギリスの女性たちがどのような生き方を求められたのか、また与えられた条件をすり抜けながら、女性たちがどのように活動の幅を広げていったのかを学ぶ。具体的には、フェミニズム思想の形成、家族像の変容、女子教育の発展、女性の政治参加の歩み、女性労働の歴史、大英国内での女性の位置などのテーマを扱		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨン 第2回 イギリス女性史概説(1) 第3回 イギリス女性史概説(2) 第4回 フェミニズム論の形成(1)メアリ・ウルストンクラフト 第5回 フェミニズム論の形成(2)J・S・ミルとH・テイラー 第6回 『プライドと偏見』:19世紀初頭の女性 第7回 家族と教育(1)ヴィクトリア時代の家庭と女性 第8回 家族と教育(2)ガヴァネスとしての女性 第9回 家族と教育(3)少女の社会化 第10回 家族と教育(4)女性の高等教育 第11回 女性と政治(1)チャーティスト運動と女性 第12回 女性と政治(2)ヴィクトリア女王 第13回 女性と政治(3)女性参政権運動の展開 第14回 まとめ(1) 第15回 まとめ(2)	【後期】 第1回 後期INTROクダクシヨン 第2回 女性と労働(1)既婚女性の労働 第3回 女性と労働(2)工場法とジェンダー 第4回 女性と労働(3)女性工場監督職と階級 第5回 女性と労働(4)女性労働運動 第6回 『カレンダー・ガールズ』:女性と慈善 第7回 慈善と社会福祉(1)チャリティと女性 第8回 慈善と社会福祉(2)家族・中間団体・国家 第9回 慈善と社会福祉(3)オクタヴィア・ヒル 第10回 大英帝国と女性(1)女性の帝国経験 第11回 大英帝国と女性(2)戦争と看護職の専門化 第12回 大英帝国と女性(3)海を渡る女教師 第13回 第二次世界大戦・現代のイギリス女性 第14回 女性史からジェンダー史へ 第15回 まとめ	
進め方	全員が予習してくることを前提として、テキストの輪読を行う。レポーターによるトピックス発表やディスカッションなど、学生の積極的な参加が求められる。詳しい授業の進め方については、初回の授業で説明する。なお取り上げるテーマは、履修者の人数や関心にあわせて随時変更することもありうる。		
テキスト	河村貞枝・今井けい編『近現代イギリス女性史研究入門』青木書店、2006年	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。それ以外の文献については授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席状況:20% 授業への参加姿勢:50% 前期レポート:15% 後期レポート:15%		

米国文化演習		通年 4 単位	
スクリーンに見る黒人女性		岩本 裕子 (いわもと ひろこ)	
ねらい	アメリカ黒人の「はじめて」は、彼らの意志とは無関係にアフリカ大陸から「連れてこられて」アメリカ大陸に運ばれた1619年のことである。以後390年間の黒人史を踏まえて、映像に描かれた黒人女性について考えていきたい。		
授業計画	【前期】 第1回 前期講義内容紹介 第2回 前期発表担当映画決定 (以下担当映画) 第3回 『風と共に去りぬ』 第4回 『南部の唄』 第5回 『アミスタッド』 第6回 『ピラウド』 第7回 『ルーツ』 第8回 『クイーン』 第9回 『ジョゼフィン・ベーカー物語』 第10回 『ビリー・ホリデー物語』 第11回 『カラー・パープル』 第12回 ドキュメンタリー『戦士の刻印』 第13回 講義：黒人音楽の源流をたどる	【後期】 第1回 後期発表担当映画決定 (以下担当映画) 第2回 『ロング・ウォーク・ホーム』 第3回 『ゴースト・オブ・ミシシッピー』 第4回 『マルコムX』 第5回 『ゲット・オン・ザ・バス』 第6回 『スクール・デイズ』 第7回 『ドゥ・ザ・ライト・シング』 第8回 『招かれざる客』と『ジャングル・フィーバー』 第9回 『ボーイズン・ザ・フード』 第10回 『ポエティック・ジャスティス』 第11回 『ため息つかせて』 第12回 『ソウル・フード』 第13回 『ティナ』 第14回 講義：黒人教会のクリスマス礼拝 第15回 レポート提出、年度末お別れ講義	
進め方	授業はグループごとの学生の発表を中心に進めていく。発表担当者はレジメを作成して、クラスの他学生の理解の指針を提示する。映画を題材とした発表となるために、必ず発表の対象とした映画を持参して発表時には最適と思われる箇所(約10分程度)を見せるようにする。		
テキスト	岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』(メタ・ブレーン、1999年)	参考文献	大学や地域の図書館などを有効に使い、よりよい発表のためにどのような参考書を使えばよいかは、発表仲間との共同作業で探してほしい。
評価方法	出席:30% 各学期1回の発表:30% 各学期1回のレポート:40%		

英語表現特講		通年 4 単位	
伝えたい内容を、正確で明快な英語で書く		加納 孝代 (かのう たかよ)	
ねらい	自分の伝えるべきこと、伝えたいことを、英文で表現することができるように、英文を書く力を身につける。述べたいことを整理し、合理的に説明し、明快な結論を提示するという訓練を積む。同時に文法の基礎を再確認する。		
授業計画	【前期】 第1回 英語表現の基礎1。書式について 第2回 エッセイ その1 第3回 講評。文法unit 1 (現在時制) 第4回 講評。文法unit 2 (同・未来の代用) 第5回 講評。文法unit 3 (同・現在進行形) 第6回 エッセイ その2 第7回 講評。文法unit 4 (同・その他の用法) 第8回 講評。文法unit 5 (過去時制) 第9回 講評。文法unit 6 (同・進行形、完了形) 第10回 エッセイ その3 第11回 講評。文法unit 7 (現在完了・完了、結果) 第12回 講評。文法unit 8 (同・継続、経験) 第13回 講評。文法unit 9 (同・進行形、受身) 第14回 モデルエッセイの講読と分析1 第15回 モデルエッセイの講読と分析2	【後期】 第1回 英語表現の基礎2。構成について 第2回 エッセイ その4 第3回 講評。文法unit 10 (過去完了・完了、結果、経験) 第4回 講評。文法unit 11 (過去完了・継続、進行形) 第5回 講評。文法unit 12 (過去完了・受身) 第6回 エッセイ その5 第7回 講評。文法unit 13 (単純未来) 第8回 講評。文法unit 14 (意志未来) 第9回 講評。文法unit 15 (疑問文・意思) 第10回 講評。文法unit 16 (疑問文・依頼、勧誘) 第11回 エッセイ その6 第12回 講評。文法unit 17 (will の用法) 第13回 講評。文法unit 18 (be going to の用法) 第14回 講評。文法unit 19 (would の用法) 第15回 講評。文法unit 20 (should の用法)	
進め方	まずパラグラフについて、つぎにいくつかのパラグラフをまとめたエッセイの書き方について基本的な点を学ぶ。学期中に数回、エッセイを書いて提出する。それらを授業中に講評し、一緒に推敲を試みる。		
テキスト	English Writing Focused on Tenses, by Noboru Nagasaki (鷹書房弓プレス)	参考文献	随時紹介
評価方法	学期中提出エッセイ:60% 期末提出エッセイ:20% 授業参加度:20%		

Listening and Discussion		通年 4 単位	
		シミズ (SHIMIZU, M. M.)	
ねらい	Students will have the chance to discuss a wide variety of topics using English skills acquired to date.		
授業計画	【前期】 第1回 Textbook Units 1 & 2 第2回 Textbook Units 3 & 4 第3回 Textbook Units 5 & 6 第4回 Test 1 第5回 Textbook Units 7 & 8 第6回 Textbook Units 9 & 10 第7回 Textbook Units 11 & 12 第8回 Test 2 第9回 Textbook Units 13 & 14 第10回 Textbook Units 15 & 16 第11回 Textbook Units 17 & 19 第12回 Test 3 第13回 Test Feedback and Review	【後期】 第1回 Textbook Units 20 & 21 第2回 Special Activity 第3回 Textbook Units 22 & 23 第4回 Textbook Units 24 & 26 第5回 Test 4 第6回 Textbook Units 27 & 28 第7回 Textbook Units 29 & 30 第8回 Textbook Unit 31 第9回 Textbook Units 33 & 34 第10回 Textbook Units 35 & 36 第11回 Test 5 第12回 Review for Test 6 第13回 Test 6 (Group Discussion) 第14回 Test Results and Course Summary	
進め方	In this course, you will discuss a variety of topics and express your opinions and ideas in English in pairs and small groups.		
テキスト	Talk Your Head Off	参考文献	
評価方法	Tests:60% Attendance, Participation and Homework:40%		

翻訳論		通年 4 単位	
日本文学の英訳、英米文学の和訳を比較する		井原 真理子 (いはら まりこ)	
ねらい	皆さんは、今まで翻訳を通じて世界のさまざまな文学に親しんでいらしたと思います。さて、それらが「翻訳された」作品なのだと意識したことはありますか。この授業では、日本語では言い古された表現が英訳でかえってみずみずしく迫ってくるのを確認したり、英語の原典が持っている「微妙なニュアンス」について考えてみたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 翻訳の理論について 第3回 同上 第4回 俳句を読み、翻訳と比較する 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 和歌を読み、翻訳と比較する 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 前期小論文について	【後期】 第1回 小テスト (辞書持ち込み可) 第2回 英文学の作品を読む。 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 上記作品の翻訳をいくつか比較する。 第8回 同上 第9回 同上 第10回 学生による発表 第11回 同上 第12回 同上 第13回 上記作品の映画化作品をいくつか比較鑑賞 第14回 同上 後期小論文について 第15回 まとめ	
進め方	まず、原典をじっくりと鑑賞し、その後その翻訳作品を比較検討してゆきます。なお、昨年度英文学科二年時間設の「翻訳論」と内容が重複しないよう、今年度は違う作品を使用します。 授業中は、学生には発言を求めたり、文章を書いたり、発表をしたりと積極的な参加を期待します。		
テキスト	授業中に随時配布する。	参考文献	辞書は必ず持参しましょう。
評価方法	平常点:40% 学期末小論文:60%		

通訳法		通年 4 単位	
通訳の理論と通訳法の学習		井戸 恵美子 (いど えみこ)	
ねらい	通訳とは何か、通訳者には何が求められるかの紹介と共に、実際の演習を通して、日英・英日の通訳技術の習得、英語力の強化をはかる。日常会話から会議等の場での通訳が実施できるような基礎力をつけると共に、情報を正しく理解し、自然な訳出を作り出す応用力の習得を目指す。その他TOEIC/TOFELのリスニング部分の勉強としても役立つ授業とし		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 通訳の手法、分野について 第3回 話し方の訓練①：シャドーイング他 第4回 話し方の訓練② 第5回 単語力の強化について 第6回 情報の取り方の訓練①：リスニング、リテンション他 第7回 情報の取り方の訓練② 第8回 単文ごとの逐次通訳①：平易な文章をもとに 第9回 単文ごとの逐次通訳② 第10回 文法で注意したい点とは① 第11回 数の英語 第12回 数の入った文章の逐次通訳①：身のまわりの数字を使用 第13回 数の入った文章の逐次通訳② 第14回 通訳業務にどう備えるか：背景知識の重要性 第15回 まとめ・学期末試験	<p>【後期】</p> 第1回 前期学習内容の復習、後期のオリエンテーション 第2回 文法で注意したい点とは② 第3回 情報の取り方の訓練③：要約、パラフレーズ他 第4回 情報の取り方の訓練④ 第5回 伝わりやすい通訳について 第6回 メモ取りの練習① 第7回 メモ取りの練習② 第8回 より長い文章の逐次通訳①：セミナーのオープニングなど 第9回 より長い文章の逐次通訳② 第10回 サイト・トランスレーションの備え方 第11回 サイト・トランスレーション①：挨拶文章をもとに 第12回 サイト・トランスレーション② 第13回 同時通訳の基礎への挑戦① 第14回 同時通訳の基礎への挑戦② 第15回 まとめ・学期末試験	
進め方	実際の通訳演習が中心。その他、通訳の基礎となる演習や必要な知識を紹介。英語力向上の演習も含むが、適切な日本語の表現にも留意を要する。現場で実際に発生するやり取りを参考にした教材を用いるので、臨場感も大切に進めていきたい。講師は現役の通訳者なので、実際の通訳現場の様子、通訳者になる上で必要とされる経験等も随時紹介する予		
テキスト	決まった教科書は使わず、講師が必要な配布物を用意。ほぼ毎回何らかの配布物があり、数週間にわたって使うテキスト文書もあるのでなくさないよう	参考文献	必要に応じて講師から紹介していく。
評価方法	出席、授業中の発表:50% 宿題、提出物:20% 学期末試験:30%		

比較文化論		通年 4 単位	
中国の「纏足」		古田島 洋介 (こたじま ようすけ)	
ねらい	中国の奇習「纏足」に関する英文を読み、女性の生き方について知識を深めるとともに、英文読解力の向上を図る。英文専攻科だからという狭い理由で欧米のみに目を注ぐことなく、ぜひ日本に多大な影響を与えてきた中国文化の一端にも触れてみてほしい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の趣旨・方法およびテキストなどの説明 第2回 第1章：Introductory Remarks 訳読 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上	<p>【後期】</p> 第1回 第2章：Origin and Presence 訳読 第2回 同上 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 まとめ：纏足の歴史	
進め方	完全な演習形式を採る。受講者に英文を訳読してもらい、英文読解の要領を詳細に説明するとともに、比較文化論の視点から種々の解説を加えてゆく。受講者は、積極的に質問を提出すること。		
テキスト	Howard S. Levy, <i>Chinese Footbinding, the History of a Curious and Erotic Custom.</i> ただし、訳読用の教材はプリントで配付する。	参考文献	ドロシー・コウ『纏足の靴』（平凡社）
評価方法	前期レポート（翻訳）:30% 後期レポート（翻訳）:30% 学年末実力試験:20% 発表点:10% 出席点:10%		

西洋文化史		通年 4 単位	
古代ギリシア演劇の世界		小林 薫（こばやし かおる）	
ねらい	古代ギリシア演劇は、後のヨーロッパ演劇や文学に多大な影響を与えた。本講義では「三大悲劇詩人」アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスや、ギリシア喜劇詩人の代表アリストパネスの作品を精読する。これらの作品が上演された、紀元前後世紀の民主政アテネの社会状況についても学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論：ギリシア演劇の世界 第2回 西洋近代における古典古代の受容 第3回 民主政アテネの社会と文化 第4回 ギリシア悲劇の上演制度 第5回 アイスキュロス：『ペルサイ』1 第6回 アイスキュロス：『ペルサイ』2 第7回 アイスキュロス：『ペルサイ』3 第8回 アイスキュロス：『ペルサイ』4 第9回 アイスキュロス：『ペルサイ』5 第10回 ソポクレス：『オイディプス王』1 第11回 ソポクレス：『オイディプス王』2 第12回 ソポクレス：『オイディプス王』3 第13回 ソポクレス：『オイディプス王』4 第14回 ソポクレス：『オイディプス王』5 第15回 これまでのまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 エウリピデス：『メディア』1 第2回 エウリピデス：『メディア』2 第3回 エウリピデス：『メディア』3 第4回 エウリピデス：『メディア』4 第5回 エウリピデス：『メディア』5 第6回 エウリピデス：『メディア』6 第7回 ギリシア悲劇とギリシア喜劇：ジャンル論 第8回 民主政アテネとペロポネソス戦争 第9回 アリストパネス：『女の平和』1 第10回 アリストパネス：『女の平和』2 第11回 アリストパネス：『女の平和』3 第12回 アリストパネス：『女の平和』4 第13回 アリストパネス：『女の平和』5 第14回 アリストパネス：『女の平和』6 第15回 これまでのまとめ	
進め方	本講義で扱う作品を事前に読んである事を前提に授業を行うので、必ず予習しておく事。スライドやDVDなどを視聴覚教材を用い、理解を助ける。		
テキスト	ソポクレス『オイディプス王』藤沢令夫訳（岩波文庫）ISBN4-00-321052-2	参考文献	参考文献リストを配布する。
評価方法	期末試験（前期）：30% 期末レポート（後期）：50% 課題：10% 出席：10%		

女性学特講		通年 4 単位	
女性解放思想の歴史		藤田 和美（ふじた かずみ）	
ねらい	「女性学」とは、既存の知や文化をジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。この科目では近代以降の各国の女性解放思想の歴史的過程と女性学研究的の学問的成果をふまえて、恋愛や結婚、出産、子育て、女性労働、美の規範など現代の女性を取り巻く諸問題について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 女性解放思想とは 第2回 日本の女性運動 第3回 現代の女性たちをめぐる諸問題① 第4回 " ② 第5回 世界の女性運動①フランス 第6回 ②イギリス 第7回 ③アメリカ 第8回 ④ドイツ 第9回 ⑤ロシア 第10回 ⑥北欧 第11回 ⑦中国、韓国 第12回 ⑧その他 第13回 資料の調べ方 第14回 資料収集 第15回 研究テーマの設定	<p>【後期】</p> 第1回 研究発表 第2回 研究発表 第3回 研究発表 第4回 研究発表 第5回 研究発表 第6回 研究発表 第7回 研究発表 第8回 研究発表 第9回 研究発表 第10回 研究発表 第11回 研究発表 第12回 研究発表 第13回 研究発表 第14回 研究発表 第15回 研究発表	
進め方	前期は講義中心に進めるが、後期は講読文献を各自が選んで分担し、ゼミ形式で発表・討論を行う。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート：50% 発表：50%		

国際関係論		通年 4 単位	
国際関係研究入門 グローバル社会を読み解くトレーニング		芝崎 厚士 (しばさき あつし)	
ねらい	国際関係に関する基礎的な事項・概念・人物、などを扱った文章を、テーマごとに読み解き知識を身につけること、映像・音楽などの各種メディアに対するリテラシーを高めること、がねらいです。英語の資料を主に使いますので、社会に出てから世界を知り、表現する上で役立つ実践的な英語力も養成します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 国際関係論とは 学ぶことの意味、目的 第3回 国際関係の歴史 ウェストファリア条約から9.11後まで 第4回 主権国家と国民国家 第5回 映像分析1 (冷戦を考える) 第6回 パワー・ポリティックスとリアリズム 第7回 相互依存・トランスナショナリズムとリベラリズム 第8回 コンストラクティビズム、フェミニズム 第9回 外交と対外政策 理論と現実 第10回 映像分析2 (近代日本を考える) 第11回 戦争・テロリズム・ジェノサイド 第12回 平和の思想と理論 第13回 国際紛争1 民族対立・民族紛争の現状 第14回 国際紛争2 「人道的介入」論と国際社会 第15回 映像分析3 (戦争・テロリズムを考える)	<p>【後期】</p> 第1回 映像分析4 (アメリカを考える) 第2回 グローバル・ガバナンスと国際レジーム 第3回 国際経済・国際金融1 プレトン・ウッズ体制 第4回 国際経済・国際金融2 WTO成立以後の展開 第5回 映像分析5 (グローバル資本主義を考える) 第6回 国際法と国際組織 (国連を中心に) 第7回 地域統合と地域主義 理論と現状 (EU、ASEANなど) 第8回 地球環境問題 歴史・現状・理論 第9回 途上国と先進国の格差 南北問題の歴史と現状 第10回 映像分析6 (環境と開発を考える) 第11回 国際関係におけるジェンダーとフェミニズム 第12回 国際関係の中の子ども、少年少女 第13回 グローバル市民社会の歴史と現状 第14回 人間の安全保障と国際社会の未来 第15回 映像分析7 (グローバル社会の未来を考える)	
進め方	要約や英文和訳、音楽や映像など知性と感性で分析するテスト形式で進めます。新聞の要約、簡単な英文和訳などの宿題を毎週課します。毎回回収する答案と宿題に基づき、出席点と平常点を評価します。授業への積極的な参加度を重視します。就職活動などを言い訳にせず、宿題を遅れず提出すること。正当性のない遅刻・欠席は厳禁。		
テキスト	開講時に指示します。	参考文献	開講時に指示します。
評価方法	出席点・平常点:40% レポート(2回):30% 試験(前後期計2回):30%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
C. S. Lewisとキリスト教		伊藤 勝啓 (いとう かつひろ)	
ねらい	C. S. ルイス (1898—1964) の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 概要説明+このコースを取った理由と自己紹介 第2回 ルイスの幼・少年時代 第3回 母の死と家を離れる 第4回 学校生活、兄と友人 第5回 カーク・パトリック夫妻とともに 第6回 第一次世界大戦の中で 第7回 ミセス・ムーアとルイス 第8回 信仰にいたる巡礼 第9回 クリスマスとなってからの文学活動 第10回 第二次世界大戦とルイス 第11回 ナルニア国物語 第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで 第13回 Joyとの短い結婚生活 第14回 ルイスの最後の日々 第15回 ルイスとキリスト教	<p>【後期】</p> 第1回 発表と論評 第2回 同上、2 第3回 同上、3 第4回 同上、4 第5回 同上、5 第6回 同上、6 第7回 同上、7 第8回 同上、8 第9回 同上、9 第10回 同上、10 第11回 同上、11 第12回 同上、12+クリスマス祝会 第13回 同上、13 第14回 同上、14 第15回 最後の論評とまとめ	
進め方	講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。		
テキスト	参考文献	C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるものでは非読むようにすること。マタ、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む	
評価方法	出席:50% 発表:50%		